

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00495

研究課題名(和文)宮沢賢治文学の国際的な普遍性と受容可能性に関する包括的研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study on Universality and Acceptance across Cultures in Literary Works by Kenji MIYAZAWA

研究代表者

山本 昭彦(YAMAMOTO, Akihiko)

岩手大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：00210518

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：個々の研究と、研究会による共同研究の双方を続けた。海外の賢治関係出版物等の収集を行った。海外の賢治研究者とのネットワークの維持・更新も行った。最終年に予定した国際シンポジウムの先駆けとなる講演会をインド、中国、ドイツなどの研究者を招いて開催した。賢治は科学、宗教、藝術を融合的に捉え、また生命や環境について根源的に思索する詩人でもあり、言語、地域に関わらず受け入れられることは確かめられた。大きなシンポジウムは新型コロナのために開催出来なかったが、オンラインで研究会を繰り返し、当初予定以外の研究者とも意見交換を行なうことが出来た。これらの成果は16の論文、8の口頭発表、講演等として公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

様々な専門分野を持つ研究者達がそれぞれの視点から考究すると同時に合議することで、賢治理解を深めた。また日本語を母語としない者の視点も採り入れ、広い角度から賢治の作品を研究することが出来た。メンバーは花巻の「宮沢賢治学会イーハトーブセンター」の理事や編集委員を務め、連携して幅広く活動し(年誌の発行、展示会企画、市民向けイベントや講演会企画、WEBによる発信等)、今後も協力関係を維持出来ると考える。また2019年に学部「宮沢賢治いわて学センター」を設置。研究拠点、情報集積の場を作ることが出来た。今回の研究成果もセンターのイベント、刊行物などを通して市民へも還元することが出来た。

研究成果の概要(英文)：In order to cover the wide range of interests of the poet and novelist Kenji MIYAZAWA, we conducted our research separately according to our own interests, including aesthetics, comparative literature, translation, dialect studies, music, poetry, juvenile literature, religion, natural science, and natural history. We also held colloquiums alongside our individual research. Our original scheme was to hold an international symposium in the third year, and had several conferences with visiting researchers in the preceding years. However, the covid-19 pandemic hindered this plan, and we eventually decided on holding zoom meetings. Although these meetings were held in Japanese, we were fortunate to be able to welcome eight unexpected foreign researchers, from India, Korea, China, Egypt, Italy, Germany, and the U.S.A. Our publications include papers read at 8 conferences, 16 articles, and 4 annual journals for Kenji studies.

研究分野：表象文化論、比較文学、フランス文学

キーワード：宮沢賢治 翻訳 受容 方言

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 岩手大学内での共同研究として、これまでも「豊穰学」を主題とし学内経費「岩手大学研究力強化支援経費」(2016年度・2017年度)の支援を受けて、代表者・分担者による研究組織が形成され、定期的な研究会を行っていた。

(2) また全学のNPO的組織として「宮澤賢治センター」があり、今回の科研費メンバーがこれまでも運営の主体となっていたが、この組織を全学から学部附属に移すことが全学的に検討されていた。このセンターは年に一度、『賢治学』を発行してきたが、その第3輯(2016年刊行)において特集「越境する賢治」の一環としての小特集「海外における賢治文学の受容と今後の可能性」を組んで、海外10か国における賢治文学受容の概要を見ていた。

(3) 花巻市に所在する全国学会「宮沢賢治学会イーハトーブセンター」が、これまでに宮澤賢治国際研究大会を4回(1996、2000、2006、2016年)開催してきたが、当研究代表者・山本昭彦と分担者・木村直弘は4回目の大会には積極的に関与していた。

このように、国際的な観点からの賢治研究の交流を推進してきていたが、今回さらに多くの海外からの研究者の参加も得て、賢治文学の国際的普遍性と受容の可能性に焦点を絞ったシンポジウムを開催し、研究交流を進めようと企図した。

2. 研究の目的

従来の国際的な観点からの賢治文学の研究交流をさらに推し進め、多くの海外からの研究者の参加も得て、賢治文学の国際的普遍性と受容の可能性に焦点を絞ったシンポジウムを開催し、研究交流を進めようと企図した。

ジャンルを超えて日本の読者に愛読されるのみならず、諸外国語に翻訳されることを通じて多くの外国の読者にも広く受容されるようになってきている宮沢賢治の作品の国際的通用性について、比較文学・美学・芸術学・宗教文学・言語社会学・文体学等の観点から包括的に検討を行い、海外の賢治研究者とのディスカッションを通して賢治文学の国際的な普遍性、また、賢治文学の日本文学固有の価値を明らかにしようとした。

外国にある(日本語を母語としない)宮沢賢治研究者にも関わってもらうことによって、国際的裏付けをし、併せて日本文化・日本文学関係の国際的な研究モデルの形成と宮沢賢治研究の国際的研究拠点の基礎形成を目指した。

3. 研究の方法

共同研究者個々が、比較文学・美学・芸術学・宗教文学・言語社会学・文体学・方言学等の観点から賢治研究(文献研究、及び、現場での方言採集等のフィールドワーク)を行なうと共に、外国にある宮沢賢治研究者に、必要に応じて研究協力者として関わってもらう。

岩手大学の「宮澤賢治センター」(2019年からは人文社会科学部附属「宮沢賢治いわて学センター」)の定例研究会での発表や討議などの機会を活かして共同研究を続ける。この際、『賢治学』第3輯(2016年刊)における小特集「海外における賢治文学の受容と今後の可能性」(アメリカ合衆国、中国、インド、オーストラリア、ベトナム、韓国、ポーランド、イタリア、エジプト、台湾から寄稿。pp74-161)もベースに考慮しつつ考察を進める。また海外での賢治関係出版物収集及び情報更新を引き続き継続的に行う。

4. 研究成果

(1) メンバーの山本昭彦は、フランス語訳(主にエレヌ・モリタに拠る)された作品(「楢ノ木大学士の野宿」など)の詳細な検討を行ない、賢治の表現、文体の移植の可能性を見た。木村直弘は賢治における西洋近代美学受容をグスターフ・フェヒナーとの思想的結節点などに探り、当時の学問的背景との関連に新しい視野を開き、賢治の文学の持つ普遍性を示した。他に「蠕虫舞手(アンネリダタンツエーリン)」の読解なども行なった。田中成行は「虔十公園林」「やまなし」などの詳細な読解を行なった。大野眞男は宮沢賢治と方言の研究を続けると共に、メタフ

アールとメトニミーに着目して賢治詩学を考究した。小島聡子は宮沢賢治童話にみる「標準語」と方言の関係についての考察を続けた。これらの成果は後述のリストにあるように、口頭発表(8編)を経て、16本の論文、5編の図書(これらの論文の一部を掲載している)として発表されている。

(2) 加えて宮沢賢治センター 第101回定例研究会(2018.9.18)ではブラット・アブラハム・ジョージ氏(インド国立ジャワハルラル・ネルー大学教授)の「賢治作品にみられる自己犠牲・自己否定および隣人愛の概念について」の発表を中心に討議、第103回定例研究会(2019.1.30.)では馮海鷹氏(中国・清華大学人文学院副教授)の「宮沢賢治 表現のコントラスト 西洋と東洋の組み合わせ」、第104回定例研究会(2019.3.20.)では、ラインハルト・ツェルナー氏(ボン大学日本・韓国研究専攻主任教授)を迎えての討議を行なった。

(3) また2019(令和元)年度からは学部附属「宮沢賢治いわて学センター」と改編し、研究会も組織し直し、その第4回には山口明氏「宮沢賢治と周期律」(2020.1.29.) 第6回には谷口義明氏「宮沢賢治の宇宙」(2021.1.28.オンライン開催)など、自然科学に関する研究も加えた。この「宮沢賢治いわて学センター」の発足記念シンポジウムを、新型コロナのために遅れたが2021.3.27.にオンライン開催し、「地域・賢治・演劇」をテーマとして、言葉だけではない賢治の表現や、地域的、国際的普遍性についても討議した。第12回研究会(2022.1.27.)では、朴鍾振氏の「宮沢賢治コレクション 韓国における賢治絵本翻訳をめぐる」のテーマで表現と受容について考察した。

(4) これらを総合し、さらに幅広く多様な見地から討議する、一堂に会しての大きな国際学会を企画してはいたが、新型コロナの流行が止まらず、実現は適わなかった。代わるものとして上述のものを中心に、オンラインでいくつか研究会を行なった。WEBで研究会を知り海外から新たに参加してくれた研究者もあった。このように研究ネットワークの維持・更新、新たな知見の交換、交流、情報交換を行うことが出来た。

これらをベースに、この科研グループが中心となった研究拠点としての「宮沢賢治いわて学センター」は年誌『賢治学+』の刊行を続けており、今後も国際的な拡がりを持った賢治研究を続けることが出来ると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 木村直弘	4. 巻 第1集
2. 論文標題 精神物理学のアプローチとしての<心象スケッチ> - フェヒネル著『死後の生活』から「或る心理学的な仕事の仕度」へ -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『賢治学+』	6. 最初と最後の頁 105-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本昭彦、栗原敦、杉浦静、信時哲郎、ほか	4. 巻 31
2. 論文標題 宮沢賢治ビブリオグラフィー2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宮沢賢治研究Annual	6. 最初と最後の頁 1-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本昭彦	4. 巻 第2集
2. 論文標題 「楢ノ木大学士の野宿」仏訳を読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『賢治学+』	6. 最初と最後の頁 185-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大野真男	4. 巻 第2集
2. 論文標題 宮沢賢治の詩学 メタファーとメトニミー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『賢治学+』	6. 最初と最後の頁 170-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直弘	4. 巻 第2集
2. 論文標題 影は生きている 宮澤賢治はフェヒナー『小論集』を読んだか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『賢治学+』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直弘	4. 巻 第7輯
2. 論文標題 宮澤賢治 多様ノ統一 への志向 (補説) 童話「ピヂテリアン大祭」におけるプラグマティズム的 一と多 の表現をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『賢治学』	6. 最初と最後の頁 136-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中成行	4. 巻 第7輯
2. 論文標題 「やまなし」のクラムボン考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『賢治学』	6. 最初と最後の頁 47-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直弘	4. 巻 30
2. 論文標題 多様ノ統一ノ原理 再考 宮澤賢治におけるグスターフ・フェヒナーとの思想的結節点をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮沢賢治研究Annual	6. 最初と最後の頁 107-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本昭彦、栗原敦、杉浦静、信時哲郎、ほか	4. 巻 30
2. 論文標題 宮沢賢治ビブリオグラフィー2019	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮沢賢治研究 Annual	6. 最初と最後の頁 1-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本昭彦 (ほか)	4. 巻 28
2. 論文標題 宮沢賢治ビブリオグラフィー2018	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮沢賢治研究 Annual	6. 最初と最後の頁 1-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村直弘	4. 巻 第6輯
2. 論文標題 宮澤賢治における西洋近代美学受容研究序説 < 思索メモ5 > を端緒として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 賢治学	6. 最初と最後の頁 201-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中成行	4. 巻 第6輯
2. 論文標題 『虔十公園林』と今を生きる「一人の作者」としての我々の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 賢治学	6. 最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島聡子	4. 巻 60
2. 論文標題 宮沢賢治資料(番外編・周辺資料) / 花巻の児童雑誌『子供の力』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮沢賢治学会イーハトーブセンター会報	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本昭彦(ほか)	4. 巻 27
2. 論文標題 宮沢賢治ビブリオグラフィー2017	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮沢賢治研究 Annual	6. 最初と最後の頁 1-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直弘	4. 巻 第5輯
2. 論文標題 蠕虫舞手(アンネリダタンツエーリン) あるいは「tube」としてのシン・ゴジラ : 『シン・ゴジラ』における『春と修羅』の含意をめぐる試論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『賢治学』	6. 最初と最後の頁 36-82
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直弘	4. 巻 第43号
2. 論文標題 震 賢治論に向けて : サウンドスケープをめぐるエスキース	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『紫明』	6. 最初と最後の頁 86-90
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山本昭彦
2. 発表標題 フランス語に訳された「榎ノ木大学士の野宿」を読む
3. 学会等名 岩手大学人文社会科学部宮沢賢治いわて学センター第13回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木村直弘
2. 発表標題 多様ノ統一ノ原理 再考 宮澤賢治におけるフェヒナー、リップス、田中智学との思想的結節点をめぐって
3. 学会等名 宮沢賢治学会イーハトーブセンター第29回宮沢賢治研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中成行
2. 発表標題 「やまなし」のクラムボンの意味を子蟹の成長から考える
3. 学会等名 岩手大学人文社会科学部宮沢賢治いわて学センター第3回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野眞男
2. 発表標題 宮沢賢治と方言
3. 学会等名 宮沢賢治学会春季セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 小島聡子
2. 発表標題 宮沢賢治童話にみる「標準語」と方言
3. 学会等名 岩手大学シニアカレッジ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島聡子
2. 発表標題 近代言語資料としての宮沢賢治童話
3. 学会等名 宮沢賢治学会春季セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中成行
2. 発表標題 あなたはどく読む？いろいろな視点から見る賢治「雨ニモマケズ」の深み
3. 学会等名 岩手大学教育学部出前講座（花巻市）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島聡子
2. 発表標題 賢治童話に散りばめられた標準語と方言
3. 学会等名 市民講座はなまき賢治セミナー/花巻市まなび学園
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 玉澤友基、モニカ・ハムチュック、岡村民夫、木村直弘ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 杜陵高速印刷出版部	5. 総ページ数 189
3. 書名 賢治学 + 第1集	

1. 著者名 齋藤陽一、坂田裕一、大野眞男、山本昭彦、木村直弘ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 杜陵高速印刷出版部	5. 総ページ数 304
3. 書名 賢治学 + 第2集	

1. 著者名 桜井弘、馮海鷹、アドリアン・ベルチャ、田中成行、木村直弘ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 杜陵高速印刷出版部	5. 総ページ数 185
3. 書名 賢治学 第7輯	

1. 著者名 伊藤菊一、大内秀明、田中成行、木村直弘ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 杜陵高速印刷出版部	5. 総ページ数 243
3. 書名 賢治学 第6輯	

1. 著者名 岩手大学人文社会科学部宮沢賢治いわて学センター、農学部附属農業教育資料館	4. 発行年 2019年
2. 出版社 杜陵高速印刷出版部	5. 総ページ数 36
3. 書名 盛岡高等農林学校と宮澤賢治	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>宮沢賢治いわて学センター https://jinsha.iwate-u.ac.jp/iwategaku-center 岩手大学・人文社会科学部附属のセンター。 2019.4.1.にそれまでの学内の「宮澤賢治センター」を発展的に解消させて発足。 初代センター長はこの共同研究の代表者（山本）。</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大野 眞男 (Ohno Makio) (30160584)	岩手大学・教育学部・嘱託教授 (11201)	
研究分担者	木村 直弘 (Kimura Naohiro) (40221923)	岩手大学・人文社会科学部・教授 (11201)	
研究分担者	田中 成行 (Tanaka Nariyuki) (40773940)	岩手大学・教育学部・准教授 (11201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小島 聡子 (Kojima Satoko) (70306249)	岩手大学・人文社会科学部・准教授 (11201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インド	ジャワハルラル・ネルー大学			
中国	中国・清華大学人文学院			
ドイツ	ドイツ・ボン大学東洋・アジア 学研究所			